

# 香川県高松市方言



香川県方言区画図

**【香川県の方言区画】**香川県は、現在、日本で最も狭い県で、大きな山や川などの言語を隔てる自然の障害物がなく、古くから交通の便もよかつたようである。また、旧令制国も「讃岐」一つで分断がなかった。そのため、県内の方言は大きな差異がないとされている。方言区画を立てるにすれば、島嶼部と本土を東讃と西讃に分ける3区画、もしくは、東讃・西讃の間に中讃を立てる4区画になる（土居 1982、木野田 1982）。島嶼部、東讃、西讃の区分は、幕府直轄地の島嶼部、高松藩の東讃、丸亀藩・多度津藩の西讃という近世期藩領との関連が考えられている（脇田 1938、大川原 1969、土居 1982）。

島嶼部の方言は近畿方言や中国方言の影響が県本土より強く、県本土の方言との差異が目立つ（土居 1982）。県本土の方言は概して均質であるが、細かな表現の違いで地域差がみられる。脇田（1938）附録の『讃岐方言地図』には、接続助詞「から」の「ケニ／ケン」と「キニ／キン」の分布、「～ください」に相当する「イタ」「ツカ」「ツカサイ／ツカハレ」の分布等、県内での細かな方言差が示されている。本稿では、これらの分布境界線が多く重なるところを方言区画線として定め、香川県の方言を、中讃を含む4区画とした。なお、上記の方言区画図の東讃方言と中讃方言の境界線は、玉井（1965）、上野（1985）の示す高松式アクセントと丸亀式アクセントの西側の境界に似ている。

**【高松市方言について】**香川県の北東部に位置する高松市の方言は、東讃方言の特徴を有している。前述の接続助詞「から」は「ケニ／ケン」が、「～ください」に相当する表現は「～イタ」が現れる。共通語の終助詞・間投助詞「ね」に相当する終助詞・間投助詞は、男女ともに「ノ」である。また、高松市とその周辺地域の語彙的特徴に、「する（為る）」を「セル」と言う点がある（香川県方言研究同好会 1986）。この「セル」の分布は東讃・西讃の対立とは異なり、高松式アクセントの分布に近い（中井 1998）。

**【表記について】**「うまい」「見える」等の発話は、語頭が[m]音のみで始まる[mmai][mmeru][mmejotta]等になることがあるが、「ウマイ」「ミエル」「ミエヨッタ」で表記した。

疑問文の用例の末尾には疑問符「？」を付した。共通語と異なり、疑問符の箇所で必ずしも音が上昇するわけではない。

**【調査概要】**本稿の記述は、主に、高松市三谷町（高松市の南東部に位置する）で生まれ育ち、現在も同地に居住する男性（1929年生まれ。話者 A）への臨地面接調査（2016年12月、2017年3月、8月実施）、および同話者の会話（雑談）を収録したデータにもとづく。基本的には話者 A による用例を載せているが、一部に、この話者と会話をしていた男性3名（話者 B、話者 C、話者 D）と妹（話者 E）の発話から採取した用例を含む。話者 B は 1934 年、話者 C は 1937 年、話者 D は 1944 年生まれである。3名とも三谷町に生まれ、以後も同地に居住している。話者 E は 1931 年生まれで、三谷町で生まれ育ち、結婚後は高松市伏石町に居住している。話者 A～話者 D の会話は 2017 年 8 月、話者 A と話者 E が参加していた会話は 2015 年 5 月のものである。ただし、話者 E の発話からの用例は 1 例のみであり、本稿では、終助詞等の男女で差がある表現は、一部、女性の発話に多い特徴を説明した箇所を除き、基本的に男性のものを記している。用例は、会話データから得たものののみ、話者の別「A」～「E」を[ ]に入れて示した。

## 香川県高松市方言の活用表

### 《動詞》

		多段型 書く	一段型 見る	来る	する
終止類	断定非過去	カク	ミル	クル	セル
	断定過去	カイタ	ミタ	キタ	シタ
	命令	カケ (一)	ミ (一)	コイ	セー
		カキマイ	ミマイ	キマイ	シマイ
		カカンカ	ミンカ	コンカ	センカ
	禁止	カクナ	ミナ	クルナ クナ コナ	セナ スナ
接続類	意志	カコ (一)	ミヨ (一)	コー	ショー
	推量	カクダロー	ミルダロー	クルダロー	セルダロー
	連体非過去	カク	ミル	クル	セル
	連体過去	カイタ	ミタ	キタ	シタ
	中止	カイテ	ミテ	キテ	シテ
	仮定	カイタラ	ミタラ	キタラ	シタラ
派生類	否定	カカン	ミン	コン	セン
	丁寧	△カキマス	△ミマス	△キマス	△シマス
	使役	カカス	ミサス	コサス	サス
		△カカセル	△ミサセル	△コサセル	△サセル
	受身	カカレル	ミラレル	コラレル	セラレル
	可能	ヨー カク	ヨー ミル	ヨー クル	ヨー セル 《デキル》
		カケル	ミラレル	コラレル	《デケル》
	尊敬	△カカレル	△ミラレル	△コラレル 《オイデル》	△サレル
	継続	カッキヨル	ミヨル	キヨル	ショル
		カイトル	ミトル	キョール キトル	ショール シトル
	希望	カキタイ	ミタイ	キタイ	シタイ
	のだ	カクン (ジャ)	ミルン (ジャ)	クルン (ジャ)	セルン (ジャ)

## 多段型動詞の基幹音便形

語幹末子音	語例	活用形例 (過去形)	作り方
k	書く	kak・u	カイ-タ
g	漕ぐ	kog・u	コイ-ダ
s	出す	das・u	ダシ-タ
t/c	立つ	tac・u	タツ-タ
n	去ぬ	in・u	イン-ダ
b	飛ぶ	tob・u	トン-ダ
m	飲む	nom・u	ノン-ダ
r	切る	kir・u	キツ-タ
w/o	買う	ka(w)・u	コー-タ
	拾う	hiro(w)・u	ヒロー-タ
	言う	ju(w)・u	ユー-タ

## 《形容詞・形容名詞述語・名詞述語》

	赤い	静か (だ)	学生 [ガクセー] (だ)
終止類	断定非過去	アカイ	シズカナ シズカジャ
	断定過去	アカカッタ	シズカダッタ
接続類	推量	アカイダロー	シズカダロー
	連体非過去	アカイ	シズカナ
派生類	連体過去	アカカッタ	シズカダッタ
	中止	アコーテ	シズカデ
派生類	仮定	アカカッタラ	シズカナラ
	否定	アコーナイ	シズカデナイ
派生類	なる	アコーンナル	シズカニナル
	丁寧	△アカイデス	△シズカデス
派生類	のだ	アカイン (ジャ)	シズカナン (ジャ)
			ガクセーナン (ジャ)

## 1. 動詞の活用の特徴

## (1) 活用型と語類の対応

規則的な活用型として基幹多段型(以下、「多段型」と基幹一段型(以下、「一段型」))がある。多段型にはa類動詞(「書く」・「居る」・「死ぬ」類)、一段型にはb類動詞(「見る」・「起きる」・「開ける」類)が所属する。「タル(足りる、飽きる)」「カル(借りる)」は多段型a類動詞に属する。

多段型の基幹には、ア・イ・ウ・エ・オ段の5形、および、音便形がある。語幹末子音には、k(カ行)、g(ガ行)、s(サ行)、t(タ行)、n(ナ行)、b(バ行)、m(マ行)、r(ラ行)、w(ワ行)がある。語例は、表「多段型動詞の基幹音便形」を参照。

一段型には、ミ-ル(mi-ru)、オキ-ル(oki-ru)などの基幹がイ段の動詞と、ネ-ル(ne-ru)、アケ-ル(ake-ru)などの基幹がエ段の動詞がある。

不規則な活用をする動詞として、「クル(来る)」「セル(為る)」がある。いずれも一段型に近い活用をするが、「クル」は断定過去・連体過去形キ-タ(k-i-ta)、断定非過去・連体非過去形ク-ル(k-u-ru)、否定形コ-ン(k-o-N)のように、基幹が「キ」「ク」「コ」の三段にわたる。「セル」は使役形サ-ス(s-a-su)(サ-セルとも言う)、断定過去・連体過去形シ-タ(s-i-ta)、禁止形セ-ナ(s-e-na)(ス-ナとも言う)、断定非過去・連体非過去形セ-ル(s-e-ru)のように「サ」「シ」「セ」の三段(劣勢のス-ナも含めれば四

段)にわたる。また、「セル」は意志形ショー(s-joR)のように融合によりオ段拗音になることもある。

## (2)各活用形の特徴

### 〈断定非過去形〉

多段型動詞は「カク」などのように基幹がウ段になる。一段型動詞は「ミル」などのように「基幹(=語幹)+ル」、不規則な活用体系の「来る」は「ウ段形+ル」で「クル」、「する」は「エ段形+ル」で「セル」となる。過去形も含めて、後接する終助詞には「ワ」「ゼ」「ゾ」「ノ」「ガ」「デ」などがある。これらは長音化し得る。終助詞化した接続助詞「ケニ/ケン(から)」も後接し得る。

- ・ハナコワ イツモ ロクジニ イエエ イヌワ。(花子はいつも6時に家へ帰るよ。)
- ・タローガ ナカニ オルデー。(太郎が中にいるよ。)
- ・{ワタシワ/オラワ/オラー} マイニチ アサ ロクジニワ オキル。(私は毎日、朝6時には起きる。)
- ・モー ジキニ ハナコガ ココニ クルワ。(もうすぐ花子がここに来るよ。)
- ・イマーカラ シゴトオ セルゾ。(今から仕事をするよ。)

### 〈断定過去形〉

多段型動詞は基幹音便形に、一段型動詞は基幹(=語幹)に「タ」を後接する。多段型動詞の「行く」は、終助詞が後接する場合などは音便形から促音が保たれることも多い。「来る」「する」は、イ段形「キ」「シ」に「タ」を後接する。

- ・ケサ ウラヤマニ タケノコオ トリニ {イツタ/イタワ/イタゾ}。(今朝、裏山に筍を探りに行った。)
- ・クサツトルカモ ワカラニケニ ニオイオカザンダ。(腐っているかもしれないで、臭いを嗅いだ。)
- ・マゴガ インダケン セガナイガ。(孫が帰ったから、寂しいよ。)[D]
- ・メガ モータ。(目が回った。)
- ・キー ウシノータケンノ。(気を失ったからねえ。)[A]
- ・キノー テレビオ ミタワ。(昨日テレビを見

たよ。)

- ・キノーワ ハナコガ ココニ キタ。(昨日は花子がここに来た。)

- ・キノー シゴトオ シタ。(昨日、仕事をした。)

### 〈命令形〉

多段型動詞と「する」はエ段形、一段型動詞は基幹の形をとる。いずれも、「カケー」のように長音化することが多いが、「カケ」のようにしないこともある。「来る」は不規則な「コイ」となる。

また、それぞれの形には、終助詞「ヨ(一)」の後接がよく起こる。終助詞「ヨ(一)」が付くと、命令が穏やかになり、指示や提案に近いニュアンスとなる。基幹が1拍の「見る」のような語は、特に基幹が長音化しやすく、終助詞「ヨ(一)」が続く場合も、「ミーヨー」と基幹が長音化したものに後接することが多い。

- ・ハヨ イネ。(早く帰れ。)
- ・ヒルカラ オレ。(昼からいろ。)[A]
- ・ハヨ オキヨー。(早く起きろよ。)
- ・アツイケニ マドー {アケー/アケヨ}。(暑いから、窓を開けろ/開けなさいよ。)
- ・タベテ ミー。(食べてみろ。)
- ・マイニチ ニュースオ ミーヨ。(毎日、ニュースを見なさいよ。)
- ・シゴト セーヨ。(仕事をしなさいよ。)[A]

共通語の「～なさい」にあたる丁寧な命令表現として「～マイ」がある。これは共通語の「～なさい」と異なり、目上の人に対して言っても失礼にあたらない。多段型動詞、「来る」「する」は「イ段形+マイ」、一段型動詞は「基幹(=語幹)+マイ」となる。この際も、しばしば終助詞「ヨ」が後接する。

- ・マイニチ ニュースオ ミマイヨ。(毎日ニュースを見なさいよ/見てくださいよ。)

また、共通語で「～しないか」に相当する、否定形(後述)に「カ(一)」が後接する言い方も行われている。

- ・ハヨ オキンカ。(オクレルゾ。(早く起きないか。遅れるぞ。)
- ・ハヨー シゴト センカ。(早く仕事をしないか。)

さらに、命令は、のだ形(後述の「のだ形」の項を参照)でも表される。

### 〈禁止形〉

多段型動詞は「カクナ」など「ウ段形+ナ」、一段型動詞は「ミナ」など「基幹（＝語幹）+ナ」の形をとる。「来る」は「クルナ」のほか、「クナ」「コナ」の形もある。「する」は、「セナ」「スナ」と「エ段形+ナ」「ウ段形+ナ」のどちらの言い方も行われている。命令形と同じく、終助詞「ヨ（一）」が付き得る。

- ・ヘタ（クソ）ナ モジ カクナ。（汚い字を書くな。）
- ・コナン サムイトコロニ {イツマンデモ／イツマデデモ} オルナ。（こんなに寒いところにいつまででもいるな。）
- ・サムイケン マド アケナ（ヨ）。（寒いから、窓を開けるな（よ）。）
- ・クダラン バングミヤ ミナ。（くだらない番組なんか見るな。）
- ・アシタワ ココニ クルナ。（明日はここに来るな。）
- ・アホ（ゲ）ナ コトオ {セナ／スナ}。（馬鹿なことをするな。）

### 〈意志形〉

多段型動詞と「来る」は、「カコー」「コー」と才段長音形となる。一段型動詞は「オキヨー」などの「基幹（＝語幹）+ヨ（一）」の形になる。「する」は、「ショー」と才段拗音形となる。これはイ段形に「ヨー」が付いて縮約した形と考えられる。

独り言の意志の表明としては、終助詞「カ」が付き得る。聞き手を動作の主体に含めた勧誘としては、終助詞「ゾ」「ゼ」が付き得る。「ゼ」の方が「ゾ」より丁寧なニュアンスになる。

- ・シバラク ココニ オローカ。（しばらくここにいよう。）
- ・ホイデ コンド リクグン イテ ヤローカト オモイヨタケド モー イカナンダンジヤ。（それで今度は陸軍へ行ってやろうかと思ったけど、もう行かなかったんだ。）[A]
- ・イイカゲンデ イノーブ。（[友人／親しい同僚に対して] そろそろ帰ろうよ。）
- ・サー イマカラ テレビ ミョ。（さあ、今からテレビを見よう。）
- ・マタ ココニ ヨーゾー。（[友人に対し] またここに来ようよ。）

- ・イマカラ シゴト {ショー／ショーゼ}。（今から仕事を{しよう／しましょう}。）

リクグンコークーヒコーや ユーンニ シガ  
ン ショーカト オモイヨッタンジヤ。（陸軍航空飛行っていうのに志願しようかと思っていたんだ。）[A]

また、子どもに対する発話や、女性の発話では、意志形で指示や懇やかな命令が行なわれることがある。この際、意志形には、しばしば「デ」が後接する。「デ」が後接するときの多段型動詞と一段型動詞の意志形は、「イコデ」「オキヨデ」のように長音が保たれないことが多い。

- ・ハヨ ヲー。（早く来なさい。）
- ・ハヨ ノモ（一）デ。（早く飲みなさいよ。）
- ・ニュース ミヨデ。（ニュースを見なさいよ。）

なお、話者の意志は、「オルワ」などのように、断定非過去形や非過去の否定形（後述）に終助詞「ワ」を付したもので表わされることも多い。

### 〈推量形〉

推量形は、いずれの型も基本的には「断定非過去形+ダロー」の形をとる。「ダロー」は稀に「ジャロー」「ヤロー」で現れることがあるが、話者が自分（地域）の言い方として自覚しているのは「ダロー」の形である。

- ・タローガ テガミオ カクダロー。（太郎が手紙を書くだろう。）
- ・タローワ イマカラ シゴトオ セルダロー。（太郎は今から仕事をするだろう。）

これに加えて、「意志形+ワイ」の形も推量を表す。終助詞「ワイ」が「ガ」になると、蓋然性の高まった確認（同意）要求の発話となる。聞き手を納得させるような態度が現れることもある。

- ・アトガ カコーワイ。（あいつが書くだろう。）
- ・アトガ カヨーガ。（あいつが{書くだろう？／書くじゃないか}。）

### 〈連体非過去形〉

断定非過去形と同形で、「カク」「ミル」「クル」「セル」などとなる。

- ・モー イヌ ジブンゾー。（もう帰る時間だよ。）
- ・カンサイキガ クルンワ ミナミカラ クルンジヤ。（艦載機が来るのは南から来んのだ。）

[A]

- ・イマーカラ シゴトオ セル シトモ オル。  
(今から仕事をする人もいる。)

#### 〈連体過去形〉

断定過去形と同形で、「カイタ」「ミタ」「キタ」「シタ」などとなる。「イッタ（行った）」は促音が保たれないことが多い。

- ・コノ ホンオ カイタ シトニ オータ。(この本を書いた人に会った。)
- ・サキニ オキタ モンガ (アサ) メシノ シタクオ シタ。(先に起きた人が朝ごはんの支度をした。)
- ・キノー シゴトオ シタ シトモ オル。(昨日仕事をした人もいる。)

#### 〈中止形〉

多段型動詞は基幹音便形に、一段型動詞は基幹(=語幹)に、「来る」「する」はイ段形「キ」「シ」に「テ」を後接する。断定過去・連体過去形と同様に、「行く」は音便形から促音が保たれないことが多い。

- ・ハナコガ ブンオ カイテ タローガ エオ カイタ。(花子が文を書いて、太郎が絵を描いた。)
- ・イッペン イテノー、 カイグンニ。(一度、行ってねえ、海軍に。) [A]
- ・「ヒルカラ オレ」 ユーテ。(「昼からいろつて言って。) [A]
- ・マズ シゴトオ シテ ソレカラ バンメシ {タベタ／クータ}。(まず仕事をして、それから晩ご飯を食べた。)

#### 〈仮定形〉

多段型動詞は基幹音便形に、一段型動詞は基幹(=語幹)に、「来る」「する」はイ段形に「タラ」が続く。音便形に促音が含まれる「行く」は、促音が保たれないことがしばしばある。

- ・イマカラ テガミオ カイタラ マニ アウワ。(今から手紙を書けば、間に合うよ。)
- ・エキマエノ エーガカン イタラ ソノ エガ シヨルワ。(駅前の映画館へ行けば、その映画をやっているよ。)
- ・コノ バングミオ ミタラ カンガエガ カワルカモ ワカラソワ。(この番組を見れば、考えが変わるかもしれないよ。)

#### 〈否定形〉

多段型動詞はア段形、一段型動詞は基幹、「来る」はオ段形「コ」、「する」はエ段形「セ」に、「ン」が付く。終助詞「ワ」「ゾ」「ゼ」「ノ」「ガ」「デ」(しばしば長音化する)などが後接し得る。

- ・キョーワ ハナコワ ココニ ヨンワ。(今日は、花子はここに来ないよ。)
- ・キョーワ シゴトオ {センワ／センゾ}。(今日は仕事をしないよ。)

否定形の活用を「見る」で代表させて下に示す。

断定非過去・連体非過去形 ミン

断定過去・連体過去形 ミナンダ、ミナナンダ、

ミンカッタ

推量形 ミンダロー

中止形 ミント、ミンデ、ミナンデ、ミナナンデ

仮定形 ミナンダラ、ミナナンダラ、ミナ

「見る」も含め、「着る」「来る」「する」など、否定形の断定非過去・連体非過去形が「1拍+ン」になる動詞(上述の動詞はそれぞれ「キン」「コン」「セン」)には、断定過去・連体過去形、仮定形で「ミナンダ(見なかった)」「ミナナンダラ(見なかったら)」のように「ナ」を重ねる言い方がある。中止形も、述部が過去形の(文全体が過去のことを表す)場合は、「ミナンデ」「ミナナンデ」のような言い方になることがある。もっとも、原因や理由にあたる場合には、中止形「～デ」で言うよりも、接続助詞「ケニ／ケン」を含む原因・理由節の形で言うことの方が多い。

- ・ワタシワ アンマリ テレビオ {ミンワ／ミンノー}。(私はあまりテレビを見ない {よ／ねえ}。)
- ・ワタシワ キノー ゼンゼン テレビオ ミナンダ。(私は昨日全然テレビを見なかった。)
- ・ハナコワ キモノヲ {キナンダ／キナナンダ}。(花子は着物を着なかった。)
- ・タローウ アノ バングミワ ミンダロー。(太郎は、あの番組は見ないだろう。)
- ・アサノ ニュースオ ミント イエオ デタ。(朝のニュースを {見ないで／見ずに} 家を出た。)
- ・タローウ テレビノ ニュースモ {ミンデ／ミンケニ／ミンケン} コマル。(太郎は

テレビのニュースも {見なくて／見ないから} 困る。)

- ・タローガ {コンデ／コナンデ／コナナンデ／コンケニ／コナンダケニ} コマッタ。(太郎が {来なくて／来ないから／来なかつたから} 困った。)
- ・モシ タマタマ ソトオ {ミナンダラ／ミナナンダラ} アメガ フツリヨルンニ キガ ツカナンダ。(もしたまたま外を見なければ、雨が降っていることに気がつかなかつた。)
- ・コノ ハナワ メンドー ミナ スグ カレル。(この花は面倒をみないと、すぐ枯れる。)
- ・アノ シトト ハナシオ {セナ／セナンダラ／セナナンダラ} キメラレンワ。(あの人と話をしなければ決められないよ。)
- ・ヒコージョーモ テガ タラナンダンジヤ。(飛行場も手が足りなかつたんだ。) [B]
- ・ソノトキ ウタレテ シンダ シトワ オランダン? (その時、撃たれて死んだ人はいなかつたの?) [D]

#### 〈丁寧形〉

多段型動詞と「来る」「する」はイ段に、一段型動詞は基幹に「マス」が付く。

- ・モースグ ハナコガ ココニ キマス。(もうすぐ花子がここに来ます。)
- ・イマカラ シゴトオ シマス。([上司に対して] 今から仕事をします。)

ただし、目上の人に対して話す際も、必ずしも上記の丁寧形で言うというわけではなく、これまでに述べた断定形等で言うということがよく行われる。

「マス」の現れる発話は、共通語的に話すことで丁寧な態度を示していると考えられ、方言としての丁寧さは、むしろ終助詞に現れると言えそうである。平叙文(断定や意志)の場合は「ゼ」と「ゾ」、疑問文の場合は「ナ」と「カ(真偽疑問)／ヤ(疑問詞疑問)」で丁寧さの高低が示される(女性の発話の場合、疑問文が「カ／ヤ」で終わることは稀であり、「ナ」と「カ／ヤ」の違いで丁寧さの違いが現れるのは男性発話の場合と言える)。ただし、「マス」と「ゼ」で現れる丁寧さはまったく同じというわけではなく、「マス」の方が丁寧さの度合いが高いようで

ある。また、「ナ」は丁寧な疑問を表すが、「カ」と異なり「マス」(のだ形の場合は「デス」)が現れる疑問文に「ナ」は後接しない。例えば、「ノミマスカ? (飲みますか。)」とは言っても、「ノミマスナ?」とは言わない。「ヤ」も「マス」(「デス」)に後接しないことから、「~マスカ」「~デスカ」も共通語的な言い方だと考えられる。意志形と終助詞の関係については、〈意志形〉の項も参照されたい。

- ・ワタシワ マイニチ アサ ロクジニ オキルゼ。(私は毎日、朝6時に起きます。)
- ・ワタシワ マイニチ テレビオ ミヨルゼ。(私は毎日テレビを見ています。)
- ・イマカラ シゴトオ ショーゼ。([同僚に対して] 今から仕事をしましょう。)
- ・ナニニ シマスカ? ([飲食店で注文を決める場面で、初対面の人に対して] 何にしますか?)
- ・ナニニ セルナ? ([飲食店で注文を決める場面で、年上の友人に対して] 何にしますか?)
- ・タバコワ スワンノデスカ? ([初対面の人に対して] たばこは吸わないですか?)
- ・タバコワ スワンノナ? ([年上の友人に対して] たばこは吸わないですか?)

#### 〈使役形〉

多段型動詞、「する」にはア段に「ス」「セル」が、一段型動詞は基幹、「来る」は「コ」に「サス」「サセル」が付く。「ス／サス」が付く形の方がよく行われる。

- ・タローニ テガミオ {カカス／カカセル}。(太郎に手紙を書かせる。)
- ・タローオ ナガイコト ヘヤニ {オラス／オラセル}。(太郎を長い間部屋にいさせる。)
- ・ジュンジュンニ イナス。(順番に帰らせる。) [D]
- ・ハナコニ マドオ アケサス。(花子に窓を開けさせる。)
- ・ハナコニ シトリデ イヌノ メンドー ミサセルカ? (花子に一人で犬の面倒をみさせるか?)
- ・ハナコオ ココニ コサセルワ。(花子をここに来させるよ。)
- ・タローニ スキナ シゴトオ {サス／サセ}

- ル}。(太郎に好きな仕事をさせる。)  
 • ハヤシノ ヒコージョー ヤラレタラ イカ  
 ンケン、 テマエデ タマ ナシン サスター  
 メ ューテ、 ヒトカラ キータン。(林〈=  
 林町〉の飛行場がやられたらいけないから、  
 手前で弾を無くさせるためといって、 人から  
 聞いたんだ。) [B]

活用語尾「ス／サス」は多段型動詞に準じた活用をする。一方、「セル／サセル」については、「～セタ／～サセタ」という形（一段型動詞に準じた使役の過去形）や、「～ショー／～サショー」という形（「する」に準じた使役の意志形）の出現はみられない。のことと、断定形で「ス／サス」の方がよく現れること、使役受身形（後述）で「ス／サス」が現れることから、方言としての使役形は「ス／サス」であり、「セル／サセル」は断定形のみで共通語的に現れていると考えられる。

- ハナコニ シトリデ イヌノ メンドー ミサセ。(花子に一人で犬の面倒をみせろ。)
- コドモニ クワシタ。(子どもに食べさせた。)
- コドモニワ クワサン。(子どもには食べさせない。)
- スキナヨーニ サシタラ エーガー。(好きなようにさせたらいいじゃないか。)

#### 〈受身形〉

多段型動詞はア段形に「レル」が、一段型動詞は基幹に、「来る」は「コ」に、「する」は「セ」に「ラレル」が付く。「レル／ラレル」は一段型動詞に準じた活用をする。

- タローニ サキニ イナレタ。(太郎に先に帰られた。)
- ナガイコト オラレタラ コマルゾー。(長い間いられたら、困るぞ。)
- ニヘン ウタレタノ、 カンサイキニ。(二度、撃たれたなあ、艦載機に。) [A]
- トバサレテノ。(飛ばされてねえ。) [A]
- コロンダ トコロ タローニ ミラレタガ。(転んだところを太郎に見られたよ。)
- ハナコニ コラレテ メーワクダッタ。(花子に来られて、迷惑だった。)
- タローニ ヒドイコトオ セラレタ。(太郎にひどいことをされた。)

- ゼンゴワ サユー セラレル。(前後は左右される。) [B]
  - カンサイキニ ネライウチ セラレテノ。(艦載機に狙い撃ちされてねえ。) [A]
- なお、使役受身形は、前述の使役形の「ス／サス」の形に受身形を後接させた形になる。
- ムリヤリニ イカサレタ。(無理矢理に行かされた。) [A]
  - ソレデ オラサレテ。(それで、いさせられて。) [A]
  - オボエササレタ。(覚えさせられた。) [B]

#### 〈可能形〉

能力（心情）可能、状況可能ともに現れる汎用的な形と、能力（心情）可能に限って現れる形がある。

汎用形については、肯定の場合、多段型動詞はエ段形に「ル」を付ける。また、一段型動詞は基幹に、「来る」は「コ」に「ラレル」を付ける。

否定の場合、多段動詞はエ段形に「ン」を付け、一段型動詞は基幹に、「来る」は「コ」に「ラレン」を付ける。否定形から判断できるように、これらの活用は一段型動詞の活用に準じている。

「する」には、これらに相当する形がなく、「デキル」「デケル」とその否定形「デキン」「デケン」が現れる。また、一段動詞の「見る」は、状況可能では、代替動詞「ミエル（見える）」とその否定形「ミエン（見えない）」で言ったり、「ミラレル」を含まない他の状況描写の文で表現したりすることが多く（「その映画は駅前の映画館で見られるよ。」を「駅前の映画館に行ったら、その映画をやっているよ。」に対応する文で言うなど）、実際の会話で耳にする頻度は少ない。

なお、汎用形では、動作の対象が、たいていガ格になる。

- コノコワ マダ コンマイケド ムズカシーカンジガ カケル。(この子はまだ小さいけれど、難しい漢字が書ける。)
- ココワ アカイケニ ジガ チャント カケル。(ここは明るいので、字がちゃんと書ける。)
- ヒトリデ オレンワー。(一人でいられないよ。)
- モー コナン サムイ トコニワ オレンワー。(もうこんなに寒いところにはいられない)

いよ。)

- ・マダ イネンガ。 (まだ帰れないよ。)
- ・ハルニ ナッタラ コトヒラデ カブキガ ミラレル。 (春になつたら琴平で歌舞伎が見られる。)
- ・ニチヨーワ ミトコーモンガ カカットランケン ミラレンワ。 (日曜は『水戸黄門』がかかっていないから、見られないよ。)
- ・{ヌクーンナッタンデ／ヌクーンナッタケニ} タイギナシニ オキラレル。 (暖かくなったので、楽に起きられる。)

能力(心情)可能に限られる形は、「ヨー」が先行する。肯定の場合は「ヨー」と断定非過去形、否定の場合は「ヨー」と否定形を合わせて作られる。

- ・ハナコワ コンマイケド アサ ヒトリデ ヨー オキル。 (花子は小さいが、朝一人でも起きられる。)
- ・ハナコワ マダ コンマイケニ アサ ヒトリデ ヨー オキン。 (花子はまだ小さいので、朝一人では起きられない。)
- ・タローワ サカアガリオ ヨー セルゾ。 (太郎は逆上がりができるよ。)

#### 〈尊敬形〉

多段型動詞、「する」はア段形に「レル」が、一段型動詞は基幹、「来る」は「コ」に「ラレル」が付くという形が存在するが、あまり行われていない。

代替語の「イラッシャル」「メシアガル」「ナサル」などは、ほとんど現れないが、「いる」「来る」の「オイデル」の語は比較的、現れる。

- ・テンノーヘーカガ クルマカラ オリラレル。  
(天皇陛下が車からお降りになる。)
- ・テンノーヘーカガ オイデル。 (天皇陛下がいらっしゃる(=来る。))
- ・ドコニ オイデタン? (どこにいらっしゃった(=いた)の?) [D]
- ・テンノーヘーカガ アイサツ サレル。 (天皇陛下が挨拶をなさる。)

#### 〈継続形〉

「カッキヨル」「ミヨル」などの進行(動作・変化の継続)を表すものと、「カイトル」「ミトル」などの結果継続と進行の両方を表すものがある。

前者は、西日本に広く分布する「ヨル」形にあた

る。多段型動詞、一段型動詞は基幹に、「来る」「する」はイ段形「キ」「シ」に「ヨル」を付したもののが基本となるが、多段型動詞は下表のように語幹末子音の前に促音や撥音等が挿入され、さらに基幹末が拗音化する(語幹末子音がw/oのものを除く)という形で音便化することが通常である。

語幹末子音	語例	継続形 (進行限定形)	
k	書く kak・u	カッキヨル	kaQkјorу
g	漕ぐ kog・u	コッギヨル	koQgјorу
s	出す das・u	ダッショル	daQsjору
t/c	立つ tac・u	タッチョル	taQcjору
n	去ぬ in・u	インニヨル	iNnјorу
b	飛ぶ tob・u	トッビヨル	toQbjору
m	飲む nom・u	ノンミヨル	noNmјorу
r	切る kir・u	キッジョル	kiQzјorу
w/o	買う ka(w)・u 拾う hiro(w)・u 言う ju(w)・u	キツリヨル カイヨル ヒロイヨル イーヨル イヨル	kiQrјorу kaijору hiroijору iijору ijору

また、「来る」も「キヨッタ」「キヨール」のように、「する」も「ショッタ」「ショール」のように拗音化や拗音長音化がしばしば起こる。

- ・ニバシャデ ドロオ ハコッビヨッタケンノ。  
(荷馬車で泥を運んでいたからね。) [A]
- ・ダレカガ ナンカ イヨルワイ。 (誰かが何か言っているぞ。) [A]
- ・ハナコワ イマー テレビオ ミヨル。 (花子は今、テレビを見ている。)
- ・ヒコーキカラ ハナレタラ ヒガ ミエヨル。  
(（爆弾が）飛行機から離れたら火が見えていた。) [A]
- ・オーケナ ビーニジュークガ インニヨンガミエヨッタ。 (大きなB29が帰っているのが見えていた。) [A]
- ・ココラヘンデ シトガ ニサンニンデモ ミエヨッタラ ウッチョッタ。 (ここ辺りで人が2、3人でも見えていたら撃っていた。)  
[A]
- ・ハナコワ イマ デンシャデ コッチニ {キヨルワ／キヨーロワイ}。 (花子は今、電車でこちらに{来ているよ／来ているだろう。})
- ・タローワ イマ ムコーノ ヘヤデ シゴト

オ {ショルワ／ショルゾ}。(太郎は今、向こうの部屋で仕事をしているよ。)

後者の結果継続と進行の両方を表す形は、多段型動詞は基幹音便形に、一段型動詞は基幹に、「来る」「する」はイ段形「キ」「シ」に「トル」が付されたものである。

- タローワ イマ テガミオ カイトルワ。(太郎は今、手紙を書いているよ。)

- タローワ イマ ムコーノ ヘヤデ シゴトオ シトルワ。(太郎は今、向こうの部屋で仕事をしているよ。)

- ハナコワ マニチ ココエ キトルワ。(花子は毎日ここに来ているよ。)

- タローワ モー サンサツモ ホンオ カイトルワ。(太郎はもう3冊も本を書いているよ。)

- オ、アイトルガ。(あ、〈グラスが〉空いているじゃないか。) [A]

- ハナコワ モー ソノ エーガオ ミトルワ。(花子はもうその映画を見ているよ。)

- ハナコワ キノーカラ ココニ キトル。(花子は昨日からここへ来ている。)

「ヨル」「トル」は、いずれも多段型動詞として活用する。中止形に活用する場合を下に示す。

- コークーヒコーエノ シガンガ キトッテノ一。(航空飛行への志願が来ていてね。) [A]

「イットル(行っている)」「イットッタ(行っていた)」は、しばしば第2拍目の促音が保たれない「イトル」「イットッタ」になる。また、「言う」は「ユートル」になる。

- シガン シテ イットタ モンワ シンドル。(志願をして行っていた者は死んでいる。)

[A]

#### 〈希望形〉

多段型動詞はイ段形、一段型動詞は基幹、「来る」は「キ」、「する」は「シ」に「タイ」が付く。形容詞型の活用をする。

- キョーワ ハヨ イニタイノ。(今日は早く帰りたいなあ。)

- ミンナデ コノ シゴトオ シタイ。(みんなでこの仕事をしたい。)

#### 〈のだ形〉

連体非過去形、連体過去形に「準体助詞ン+助動詞ジャ」が続く形で、説明や命令を表す。「ジャ」は長音化することもある。「ジャ(一)」は、話者によっては「ヤ(一)」で現れる。また、基本的に「ジャ(一)」と言う話者でも、稀に「ヤ(一)」と言うことがある。名詞述語と同様に終助詞「ゾ」「ゼ」「デ」「カ」「ヤ」「ナ」(いずれも長音化し得る)は「ジャ(一)」を介さず「ン」に直接付く。

- シズカニ セー。 タローガ ナカニ オルンジャガ。(静かにしろ。太郎が中にいるんだよ。)

- タカマツノ クーシューノ トキンワ、 カタメテノ、 タバンシテ、 オトスンジャワ。(高松の空襲の時には、固めてね、東にして、落とすんだよ。) [A]

- ヨアケニ インダンジャ。(夜明けに帰ったんだ。) [A]

- シットルカ。タローワ イツモ ロクジニ {オキルンジャ／オキルンゾ}。(知ってる? 太郎はいつも6時に起きるんだ〈よ〉。)

- ソージ セナ イカンノ。 ハナコガ {クルンジャ／クルンヤ}。(掃除をしなくちゃいけないね。花子が来るんだ。)

- タローワ ヒトリデ コノ シゴトオ {セルンジャ／セルンゾ}。 タイヘンジャー。(太郎は一人でこの仕事をするんだ〈よ〉。大変だ。)

- ヒトリデ コノ シゴトオ {セルンジャ／セヨ}。 ([命令として] 一人でこの仕事をするんだ／しなさいよ。)

- ヒトリデ ルスバン {セルンジャ／セヨ}。 ([命令として] 一人で留守番をするんだ／しなさいよ。)

否定形、使役形、受身形、可能形、継続形、希望形に続く場合も、それぞれが連体非過去形、連体過去形になる。否定形が前接するときは、準体助詞「ン」は「ノ」になる。

疑問文では「ジャ」は消失し、疑問の終助詞「カ」「ヤ」や「ナ」が直接付く。疑問の終助詞が現れず、「ン」で終わることもある。

- チャンネル カエテ クレ。 ヤキューチューケーガ ミタインジャ。(チャンネルを変え

- てくれ。野球中継が見たいんだ。)
- ・ハナシニ ナランノジャ。(話にならないんだ。)
- [A]
- ・クスリ ノンダンカ? ノマンノカ? (薬はのんのか? 飲まないのか?)
  - ・シガソヘーダッタラ イケルン? (志願兵だったら行けるのか?) [D]

また、平叙文でも、「ジャ」まで言わず、「ン」で終わることがある。

- ・ナツワ コーテ オクッテ ヤッリヨン。(夏は買って、送ってあげているんだ。) [C]
- 「ンジャ」に前接する継続形の連体過去形の末尾の「ル」は、しばしば消失する。
- ・モー キマットンジャ。(もう決まっているんだ。) [A]

## 2. 形容詞・形容名詞述語・名詞述語の活用の特徴

### 【形容詞】

形容詞の活用の型は一つである。中止形、否定形、なる形において、語幹末母音によっては交替語幹の長音形もしくは語幹の長音形が用いられる。なる形で例示する。

語幹末母音	交替後	語例
a	o	アカイ(赤い) アコーンナル
e	o	エー(良い) ヨーンナル
i	i	ウレシー(嬉しい) ウレシンナル
u	u	ワルイ(悪い) ワルンナル
o	o	オモイ(重い) オモンナル

共通語にはない語幹末母音が e の形容詞は、この方言には「エー (良い)」がある。

また、「オッキョイ (大きい)」、「ケッコイ (美しい／きれいな)」には、「オーケナ (大きな)」「ケッコナ (きれいな)」の形もあり、発話では後者がよく現れるようである。「オーケナ」「ケッコナ」は述部にも現れるため、連体詞とみなす共通語の「大きな」などとは異なり、形容名詞とみなせる。

### 〈断定非過去形〉

語幹に「イ」を付ける。「良い」は「エー」である。動詞の場合と同じく、「ワ」「ゾ」「ゼ」「デ」「ガ」「ノ」などの終助詞が後接し得る。終助詞は、しばしば長音化する。

- ・コノ トマトワ アカイ。(このトマトは赤い。)
- ・アレ ウマイデー。(あれ、おいしいよ。) [A]
- ・タローワ コンマイケド、ジローワ {オーケナ／オッキョイ}。(太郎は〈体格が〉小さいけれど、次郎は大きい。)

### 〈断定過去形〉

語幹に動詞的な接辞「カッタ」を付ける。非過去形と同様の終助詞が後接し得る。

- ・キノー コータ トマトワ アカカッタ。(昨日買ったトマトは赤かった。)
- ・アシコノ ウドンワ ウマカッタ。(あそこのうどんはおいしかった。)
- ・ヨカッタノ。 (よかったですねえ。) [A]

### 〈推量形〉

断定非過去形に「ダロー」を付す。稀に「ジャロー」が聞かれるが、話者が自分（地域）の言い方として自覚しているのは「ダロー」である。終助詞「ワイ」が後接することもある。また、この形は確認要求の発話としても現れる。確認要求の発話に付き得る終助詞は「ガ」である。

- ・コノ トマトワ ナカモ アカイダロー。(このトマトは中も赤いだろう。)
- ・タローワ ウレシーダローウイ。(太郎は嬉しいだろうよ。)
- ・シガソニ イカナンデ ヨカッタジャロー。 ([同意を求めるように] 志願に行かなくてよかつただろう?) [D]

また、「語幹+カロー+ワイ」の言い方もある。

- ・コノ スイカワ アマカラーウイ。(このスイカは甘いだろう。)
- ・キョーワ アツカラーウイ。(今日は暑いだろう。)
- ・タローワ ウレシカラーウイ。(太郎は嬉しいだろう。)
- ・オッキョカラーウイ。(大きいだろう。)

「ワイ」が「ガ」になると、確認要求の発話となる。

- ・コノ スイカワ オッキョカラーガ。 ([同意を求めるように] このスイカは大きいだろう?)

### 〈連体非過去形〉

断定非過去形と同形で、語幹に「イ」を付ける。

「良い」は「エー」である。連体助詞「ン(の)」の前では、長母音が保たれにくい。

- ・アカイ トマトオ カウ。(赤いトマトを買う。)
- ・ノドゴシガ エー ウドンワ ウマイ。(のど  
ごしがいいうどんはおいしい。) [A]
- ・ノドゴシノ エンガ イチバン。(のどごしの  
いいのが一番。) [A]

#### 〈連体過去形〉

断定過去形と同形で、語幹に「カッタ」を付ける。

- ・キノーマデ アカカッタ ミガ {クロンナ  
ッテ／クロクナッテ} シモータ。(昨日ま  
で赤かった実が、黒くなってしまった。)
- ・オソロシカッタンハ ヒコージョーデ ウタ  
レタ トキト イエデ ウタレタ トキジ  
ヤ。(恐ろしかったのは、飛行場で撃たれた  
時と家で撃たれた時だ。) [A]

#### 〈中止形〉

「アカイ(赤い)」など語幹末母音が交替するものは交替語幹の長音形に「テ」を付し、「アコーテ(赤くて)」などとなる。「ウレシー(嬉しい)」「ワルイ(悪い)」「オモイ(重い)」など幹末母音がi,u,oのものは語幹末を長音形にして「テ」を付し、「ウレシ  
ーテ(嬉しくて)」「ワルーテ(悪くて)」「オモーテ(重くて)」などとなる。「オソロシイ(恐ろしい/  
怖い)」「オッキヨイ(大きい)」「オモッショイ(面白  
い)」などは語幹末を長音化せずに「テ」を付す。

- ・コノ カミワ アコーテ アノ カミワ シ  
ロイ。(この紙は赤くて、あの紙は白い。)
- ・ヘヤノ ナカガ クローテ ナンチャ ミエ  
ナンダガ。(部屋の中が暗くて何も見えなか  
ったよ。)
- ・ウレシーテ ナミダガ デタ。(嬉しくて涙が  
出た。)
- ・オソロシテ ヒトリデ ヨー イカナンダガ。  
(恐ろしくて一人で行けなかったよ。)
- ・コトシノ スイカワ オッキヨテ アマイゾ。  
(今年のスイカは大きくて甘いぞ。)
- ・テレビガ オモッショテ トイレニ イク  
マガ ナイガ。(テレビが面白くてトイレ  
に行く間がないよ。)

文全体が過去を表すときは、稀に「語幹+カッテ」

の形も現れる。

- ・ハナコワ ゲンキガ {ノーテ／ナカッテ}、  
タローワ ゲンキ イッパイダッタ。(花子  
は元気がなくて、太郎は元気いっぱいだつ  
た。)
- ・テンキガ {ヨーノーテ／ヨーナカッテ}、 イ  
ネガ カレンカッタ。(天気が良くなくて、  
稲が刈れなかった。)
- ・キヨネンノ スイカワ オッキヨカッテ ア  
マカッタ。(去年のスイカは大きくて甘かつ  
た。)

#### 〈仮定形〉

語幹に「カッタラ」が付された形になる。

- ・モシ モー ミガ アカカッタラ トロー。  
(もし、もう実が赤ければ、採ろう。)

#### 〈否定形〉

「アコーナイ(赤くない)」、「ヨーナイ(良くない)」など、交替語幹の長音形(語幹末母音がi,u,uの場合は語幹)に「ナイ」が後接する。交替語幹は「ウモナイ(うまくない／おいしいくない)」のように長音形で現れないこともある。「ヨーナイ」は必ず長音形で現れる。

- ・マダ ミガ アコーナイ。(まだ実が赤くない。)
- ・コノ シルワ ウモナイノー。(この汁はおい  
しくない {なあ／ねえ}。)
- ・テンキガ ヨーナイノー。(天気が良くない{な  
あ／ねえ}。)
- ・コノ ペンワ クロナイ。(このペン(のイン  
ク)は黒くない。)
- ・コノ テンプラワ ムツゴナイ。(この天ぷら  
はしつこくない。)

「ナイ」は形容詞「ナイ(無い)」が補助用言として後接したものであり、否定形は形容詞「ナイ」と同様の形で活用する。

- ・テンキガ {ヨーノーテ／ヨーナカッテ}、 イ  
ネガ カレンカッタ。(天気が良くなくて、  
稲が刈れなかった。)
- ・ヨッポド アタマガ ヨーナカッタラ、 ソ  
ージュー デケンノート オモテ ヤメタ  
ン。(よっぽど頭がよくなければ操縦できな  
いなあと思ってやめたんだ。) [A]

#### 〈なる形〉

「アコーンナル（赤くなる）」、「ヨーンナル（良くなる）」など、交替語幹の長音形（語幹末母音が i,o,u の場合は語幹）に「ン+ナル」が後接する。形容名詞・名詞述語（後述）のなる形は「ニ+ナル」が後接することから、「ン+ナル」の「ン」は「ニ」の異形であると考えられる。

「ナイ（無い）」のなる形は、他の語幹末母音が a の形容詞と異なり、「ナシンナル」である。なお、「クロクナル（黒くなる）」「ウルサクナッタ（うるさくなつた）」など、共通語と同じ形が現れやすい語もある。

- ・モー ジキニ ミガ アコーンナル。（もうすぐ実が赤くなる。）
- ・クローンナッテ シモータ。（暗くなってしまった。）
- ・キノーマデ アカカッタ ミガ {クロンナッテ/クロクナッテ} シモータ。（昨日まで赤かった実が、黒くなってしまった。）
- ・タイヨーガ ナシンナッタラ カレルンジャワ。（太陽が無くなったら枯れるんだ。）[A]
- ・ジワジワ イヨル コエガ オッキヨンナッテ。（だんだん、言っている声が大きくなつて。）[A]
- ・ホメラレテ ウレシンナル。（ほめられてうれしくなる。）
- ・ダイブ スズシンナッタノ。（だいぶ涼しくなつたねえ。）[D]
- ・シツガ ヨーンナル。（質が良くなる。）
- ・シツガ ワルンナル。（質が悪くなる。）
- ・ミズオ スーテ オモンナル。（水を吸って、重くなる。）
- ・ヒヤコンナッテ。（寒くなつて。）[D]

#### 〈丁寧形〉

断定非過去形に「デス」を付ける。

- ・コノ トマトワ アカイデス。（このトマトは赤いです。）

動詞の場合と同様、目上の人に対して話す際にも丁寧形が現れないことがよくある。

- ・コノ トマトワ アカイノ。（〔上記と同じ場面で〕このトマトは赤いですねえ〈赤いなあ〉。）

#### 〈のだ形〉

非過去形に「ンジャ（一）」が後接する。

- ・コノ イモワ ナカガ アカインジャ。（この芋は中が赤いんだよ。）

動詞と同様、話者によっては、「ジャ（一）」は「ヤ（一）」で現れる。疑問文では「ジャ（一）」（「ヤ（一）」）は消失する。疑問の終助詞「カ」「ヤ」や「ナ」が付く場合は、「ジャ（一）」を介さず直接付く。

- ・コナイダ コンビラ イタン ヨカッタン?（この間、金毘羅へ行ったの、よかったの？）

[E]

#### 【形容名詞述語・名詞述語】

形容名詞には「ナ」を後接する形があるが、断定非過去形と連体非過去形のみで現れる。形容詞が存在する「オーケナ（大きな）」は推量形での出現も確認できた。

#### 〈断定非過去形〉

形容名詞述語は、「シズカジャ」など「ジャ」が後接する形と、「シズカナ」など「ナ」が後接する形がある。「ジャ」は長音化することがある。「ジャ（一）」には終助詞「ワ」「ノ」「ガ」が後接し得る。「ナ」には終助詞「ワ」「ゼ」「ゾ」「デ」「ノ」「ガ」が後接し得る。いずれも長音化し得る。終助詞化した接続助詞「ケニ／ケン（から）」は、両者に後接し得る。

名詞述語は、「ジャ（一）」が後接する形のみである。後続し得る終助詞は、形容名詞の場合と同じである。

- ・アノ ヘヤワ シズカナゾ。（あの部屋は静かだよ。）
- ・コノ ヘヤワ シズカナノ。（この部屋は静かだなあ。）
- ・ア一、ソレ ヨ一 ニオトルノ。 ケツコナワ。（ああ、それよく似合っているね。きれいだよ。）
- ・アノ ヘヤガ エーゾ。 ケツコ一 シズカナケニ。（あの部屋がいいよ。結構、静かだから。）
- ・オ一、 キチヨーナ。（うん、貴重だ。）[A]
- ・タローワ イツモ ゲンキジャノ。（太郎はいつも元気だねえ。）
- ・タローワ ヒトリデ コノ シゴトオ {セルンジャ／セルンゾ}。 タイヘンジャ。

- (太郎は一人でこの仕事をするんだ〈よ〉。  
大変だ。)
- ・タローワ ガクセージャ (ガ)。(太郎は学生だ〈よ〉。)
  - ・モー カオイロ マツサオジヤ。(もう顔色は真っ青だ。) [A]

## 〈断定過去形〉

形容名詞も、名詞も、「ダッタ」が後接する。

- ・アノ ヘヤワ シズカダッタ。(あの部屋は静かだった。)
- ・キノー タローワ ゲンキダッタ。(昨日、太郎は元気だった。)
- ・キヨネンマデ タローワ ガクセーダッタ。(去年まで太郎は学生だった。)

## 〈推量形〉

形容名詞、名詞のいずれも「ダロー」が後接する。

終助詞は「ワイ」が付き得る。

- ・ムコーワ モット シズカダロー。(向こうはもっと静かだろう。)
- ・タローワ キヨーモ ゲンキダロー。(太郎は今日も元気だろう。)
- ・タローワ マダ ガクセーダロー。(太郎はまだ学生だろう。)

終助詞「ガ」が後接した発話は、確認要求の発話となる。

- ・コノ スイカワ オ一ケナダローガ。([同意を求めるように] このスイカは大きいだろう。)

## 〈連体非過去形〉

形容名詞には「ナ」を付し、名詞には「ノ」を付す。

- ・シズカナ ヘヤニ オル。(静かな部屋にいる。)
- ・イツモ ゲンキナ シト。(いつも元気な人。)
- ・イマモ ガクセーノ トモダチ。(今も学生の友達。)

## 〈連体過去形〉

形容名詞、名詞のいずれにも「ダッタ」が後接する。

- ・サッキマデ シズカダッタ ヘヤガ {ウルソーンナッタ／ウルサクナッタ}。(さっきまで静かだった部屋がうるさくなつた。)

- ・キノーマデ ゲンキダッタ シトガ キュニューインシタ。(昨日まで元気だった人が急に入院した。)
- ・キヨネンマデ ガクセーダッタ トモダチ。(去年まで学生だった友達。)

## 〈中止形〉

形容名詞、名詞ともに「デ」を付す。

- ・コノ ヘヤワ シズカデ アノ ヘヤワ ウルサイ。(この部屋は静かで、あの部屋はうるさい。)
- ・タローワ ゲンキデ ハナコワ オトナシー。(太郎は元気で、花子はおとなしい。)
- ・タローワ ガクセーデ ハナコワ カイシャインジヤ。(太郎は学生で、花子は会社員だ。)

## 〈仮定形〉

形容名詞、名詞ともに「ナラ」が後接する。

- ・マワリガ モチョット シズカナラ ネムレルダロー。(周りがもう少し静かなら眠れるだろう。)
- ・モシ キノーヨリ ゲンキナラ モー クスリワ イランダロー。(もし昨日より元気なら、もう葉はいらないだろう。)
- ・モシ タローガ ガクセーナラ コノ シゴトワ タノメンワ。(もし太郎が学生なら、この仕事は頼めないよ。)

## 〈否定形〉

形容名詞も、名詞も「デ+ナイ」が後接する。

- ・コノ ヘヤワ アンマリ シズカデナイ。(この部屋はあまり静かじゃない。)
- ・キノーホド ゲンキデナイワ。(昨日ほど元気じゃないよ。)
- ・タローワ ガクセーデナイ。(太郎は学生じゃない。)

## 〈なる形〉

形容名詞、名詞ともに「ニ+ナル」が後接する。

- ・モー ジキニ シズカニナルワ。(もうすぐ静かになるよ。)
- ・カゼガ ナオッテ ゲンキニナッタ。(風邪が治って元気になった。)
- ・センモンガッコーノ ガクセーニナル。(専門学校の学生になる。)

## 〈丁寧形〉

形容名詞、名詞ともに「デス」を付する。動詞、形容詞の場合と同様に、共通語を話すような感覚の発話に現れる。

- ・コノ ヘヤワ シズカデス。(この部屋は静かです。)
- ・タローワ イツモ ゲンキデス。(太郎はいつも元気です。)
- ・タローワ ガクセーデス。(太郎は学生です。)
- ・フゴーカクデシタ。(不合格でした。) [A]

#### 〈のだ形〉

形式名詞、名詞ともに、「ナナン+ジャ (一)」が後接する。ただし、特に非過去形の名詞は、のだ形ではなく「断定形+ (ガ)」で現れることが多い。

- ・デカケルッчуー コトワ イマワ ゲンキ  
ナンジャノ。 (出かけるってことは、今は元気なんだね。)
- ・コノ イヌ ビヨーキナンジャ。(この犬、病気なんだ。)
- ・タローニワ タノメンズ。 マダ ガクセージャガ。(太郎には頼めないよ。まだ学生〈なん〉だ。)

#### 参考文献

土居重俊(1982)「四国方言の概説」『講座方言学 8 中国・四国の方言』国書刊行会

香川県方言研究同好会(1986)『さぬきのおもしろ方言集』松林社

木野田れい子(1982)「香川県の方言」 飯豊毅一・日野資純・佐藤亮一(編)『講座方言学 8 中国・四国の方言』国書刊行会

中井幸比古(1998)「方言」綾南町誌編纂委員会(編)  
『綾南町誌』

大川原泰子(1969)『讃岐方言の研究 : 高松・坂出・丸亀三市の実態を中心に』

玉井節子(1965)「香川県のアクセント」『国語研究』

20

上野善道(1985)「日本本土諸方言のアクセントの系譜と分布 1」『日本学士院紀要』40-3

脇田順一(1975)『讃岐方言の研究』国書刊行会(脇田順一(1938)『讃岐方言之研究』復刻本)

(乙武香里)